

改正人國記

ル 3  
374  
3





374  
3

人國記卷之下編目

山陰道八國

丹波一 丹後三 但馬四

伯耆六 出雲七 石見八 隱岐九

山陽道八國

播磨十 美作十二 備前十二 備中十三

備後十五 安藝十六 周防十七 長門十八

海道六國

紀伊十九 淡路二十 阿波廿一 讚岐廿二

門 3  
374  
卷 3





伊豫 廿四 土佐 廿七

西海道九國并二島

筑前 廿九 筑後 卅 豊前 卅一 豊後 卅三

肥前 卅五 肥後 卅八 日向 卅九 大隅 四十二

薩摩 四十四 壹岐 四十七 對馬 四十七

人國記卷之下

山陰道八國

丹波

當國の風俗ハ人の氣懦弱ナリ。面々各々ホテ  
己を自慢し。人の非を訾し。人の是を誹る。ひと  
夫婦人の心根多う。百姓ハ農業を専とせし。一  
高費を相かひ。身の家畜を求。熱く勇氣す  
くちく。諺に云く。昨日の味方も今日ハ歌と成り。  
世々を身一の丸養ちり。と云。







### 丹後

當國の風俗ハ上下男女ともに万人の内一人も好  
 人あり不直不しく氣強却て勇氣ハ寡し適勇  
 われハ邪智多し若又實ある者ハ愚昧あり用お  
 不堪と云。

按に當國ハ北海と云けて南に山と負て入海多  
 しく潮の温和不烈なり心寒すわれも北陸  
 小よりなり。

### 丹後國圖













### 伯耆

當國の風俗。すくて虚妄相守り。貴人に交て己  
 と省く。吾心生むと云ふ。其人を離てハ又忍心と  
 ばやむ。兎角迷園の此て居て。定り心終あま。  
 されハ今世下姓の積ふ物の扱ひ進も怠やすきと。  
 三万倍と云ふ。いふ風より始ると云。怠て不勤。勤  
 ても怠ハ勇守不足なる所と云。  
 按よ。尚ふの風も。固列は似れも。和浦原多。  
 民俗不書に云り。

### 伯耆國圖



八國巴



### 出雲

當國の風俗ハ万葉の作業實義不勤て夫を  
 一とす凡なれども。明國の禮義津ルして其禮を不  
 辨者悉邪正ともに佛祚に祈て加護とたのむとす凡  
 ち謀計ハ四符不尚。正真ハ憐を蒙祚ハ此礼と不愛  
 互の首にやとらるゝと名を互。且時之心きりて  
 按ふ。南金山負海と抱て寒風あり。

### 出雲國圖



出雲國圖

二

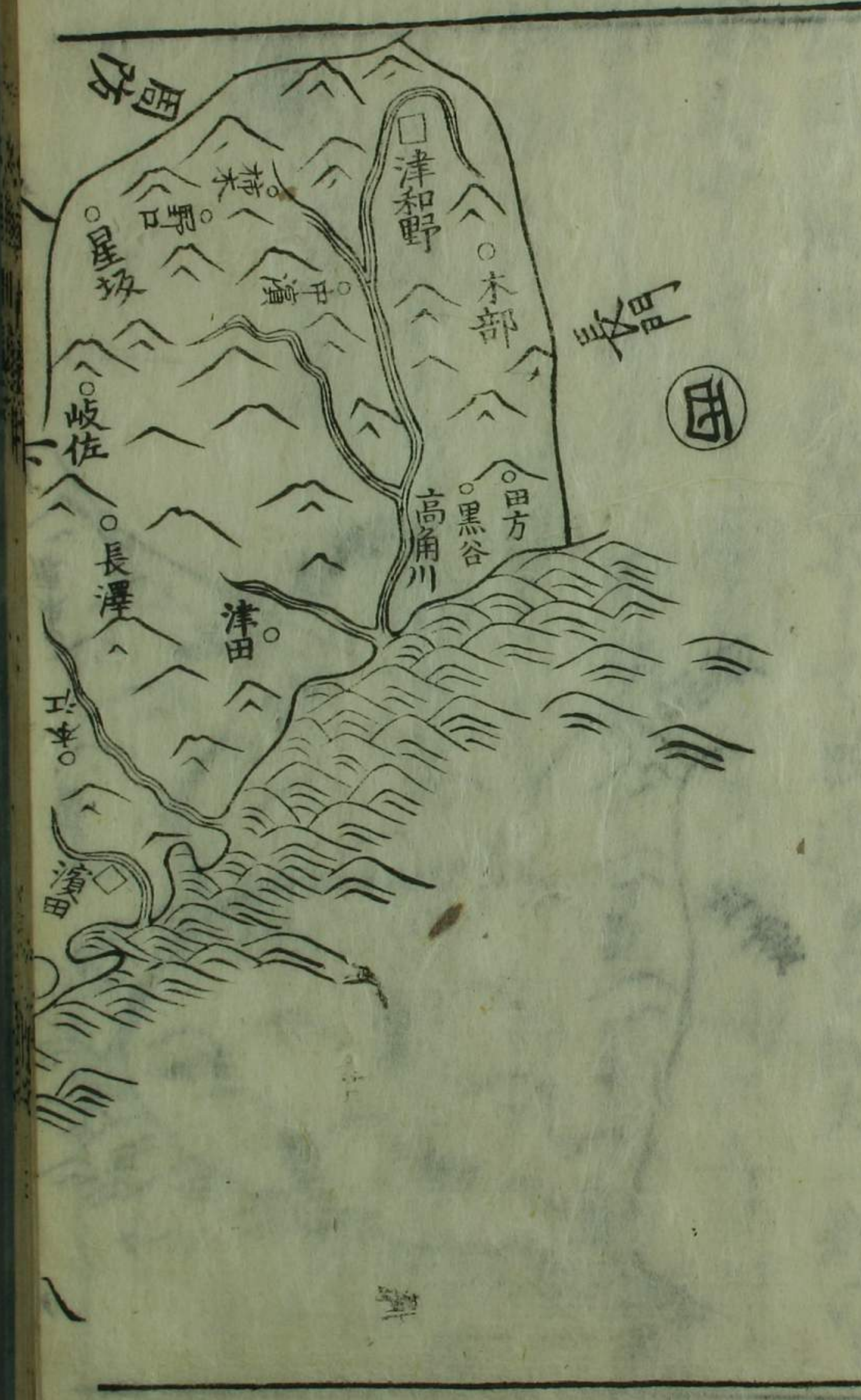


石見

當國の風俗ハ丹後の玉に不異シク俗を多クシテ  
實ちり人稀を里。昔々ふぬ風俗を。智阿の老  
ハ只悪心も巧む言徳及巧の玉をりといふ。

按に尚必ハ西北の海に向テ山々として早なる玉を  
了。そまも烈一。民俗本書に足ゆ。山岳の表  
守りを受るれと下多きと。又銀山の風俗  
て。信巧の風雨多。

石見國圖





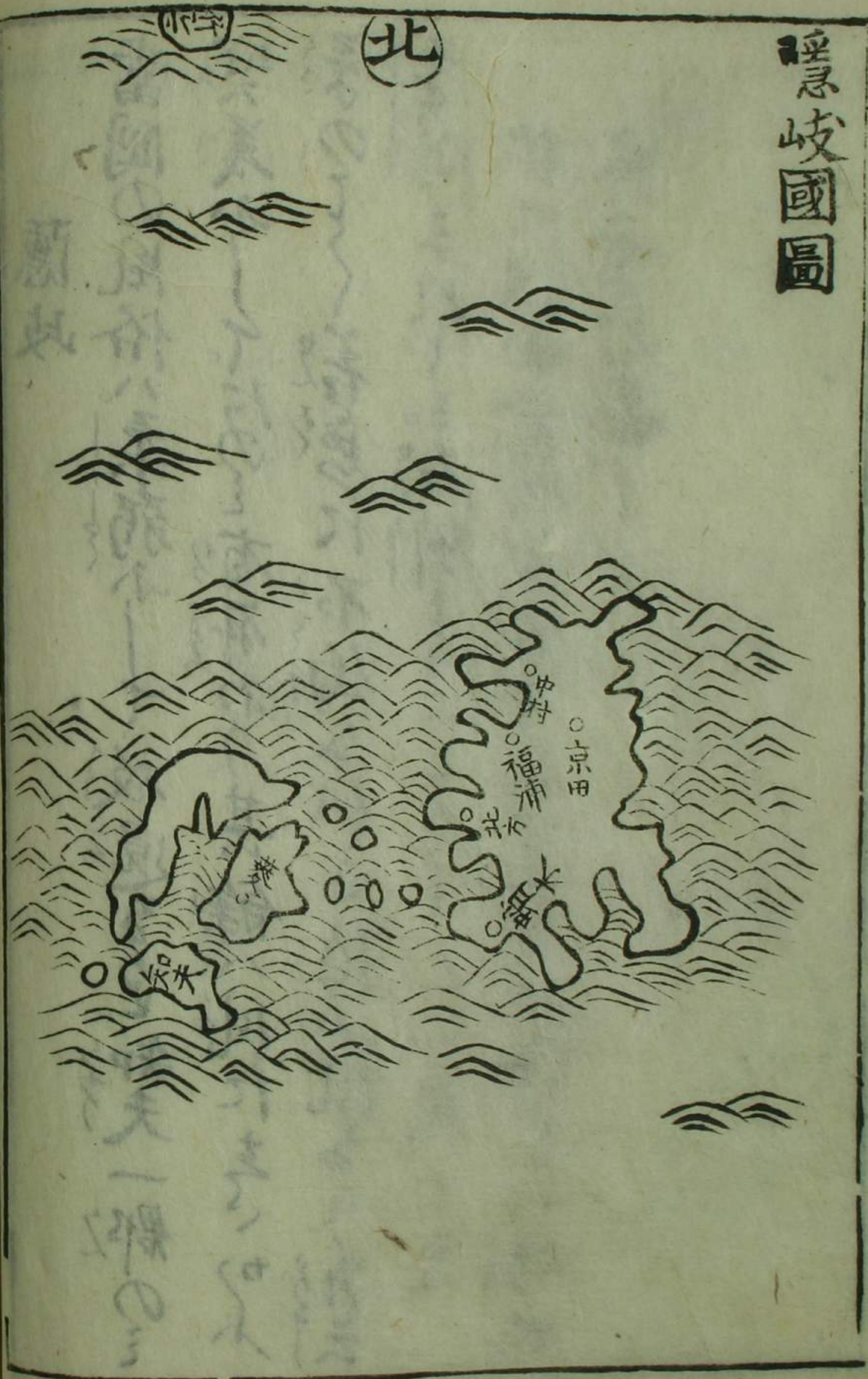


隠岐

當國の風俗ハ柔弱不<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>放逸<sup>ニ</sup>なり。知夫一郡の<sup>ニ</sup>實義<sup>ハ</sup>お<sup>レ</sup>て。たの<sup>ニ</sup>有所<sup>レ</sup>あり。其餘ハ風<sup>ニ</sup>にま<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ふ。茅<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>と<sup>ク</sup>菅<sup>ノ</sup>に<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>拘<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>び。三<sup>ノ</sup>島<sup>ノ</sup>風<sup>ノ</sup>あり。な<sup>ニ</sup>ま<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>鳴<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>れども。石<sup>ノ</sup>列<sup>ノ</sup>より<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>上<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>風<sup>ノ</sup>と<sup>レ</sup>を。按<sup>ニ</sup>に<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>雲<sup>ノ</sup>州<sup>ノ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>ニ</sup>。三十六<sup>ノ</sup>里<sup>ノ</sup>。北海<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>海<sup>ノ</sup>也。寒<sup>ノ</sup>雪<sup>ノ</sup>尤<sup>レ</sup>甚<sup>ク</sup>。



隱岐國圖



山陽道八國

播磨

當國の風俗ハ智恵あやそく義理を不知親ハ子  
 を誼し。子ハ親を欺。主ハ被友ハ仇地をわく。い  
 て好人をわき出。なとらる。被友も亦お勤  
 を二倍せし。調伏を以。不忠をばら。をけり。是  
 偏不盜戒の振。侍ハ中ノ。友ハ是。凡義。ちり。を  
 按。山陽道八國ハ南ハ海と。北ハ山と。負て。よ。この風  
 去る。寒。暑。温。和。を。一。方。の。富。有。の。あ。ま。り。民



俗本書に玉説のそくあり。風土の吸氣とく  
 くらしくも。憂患に生て。安ふに死の理不  
 て。其心不神息するよりあり。亦也。實ふ古昔の  
 武士にも。赤松堂が如き。皆利心あり。ゆて本  
 の所謂不女是也と云若る久し。

蘇秦

上野道八圖

# 播磨國圖

東



人巨言考

〇十一

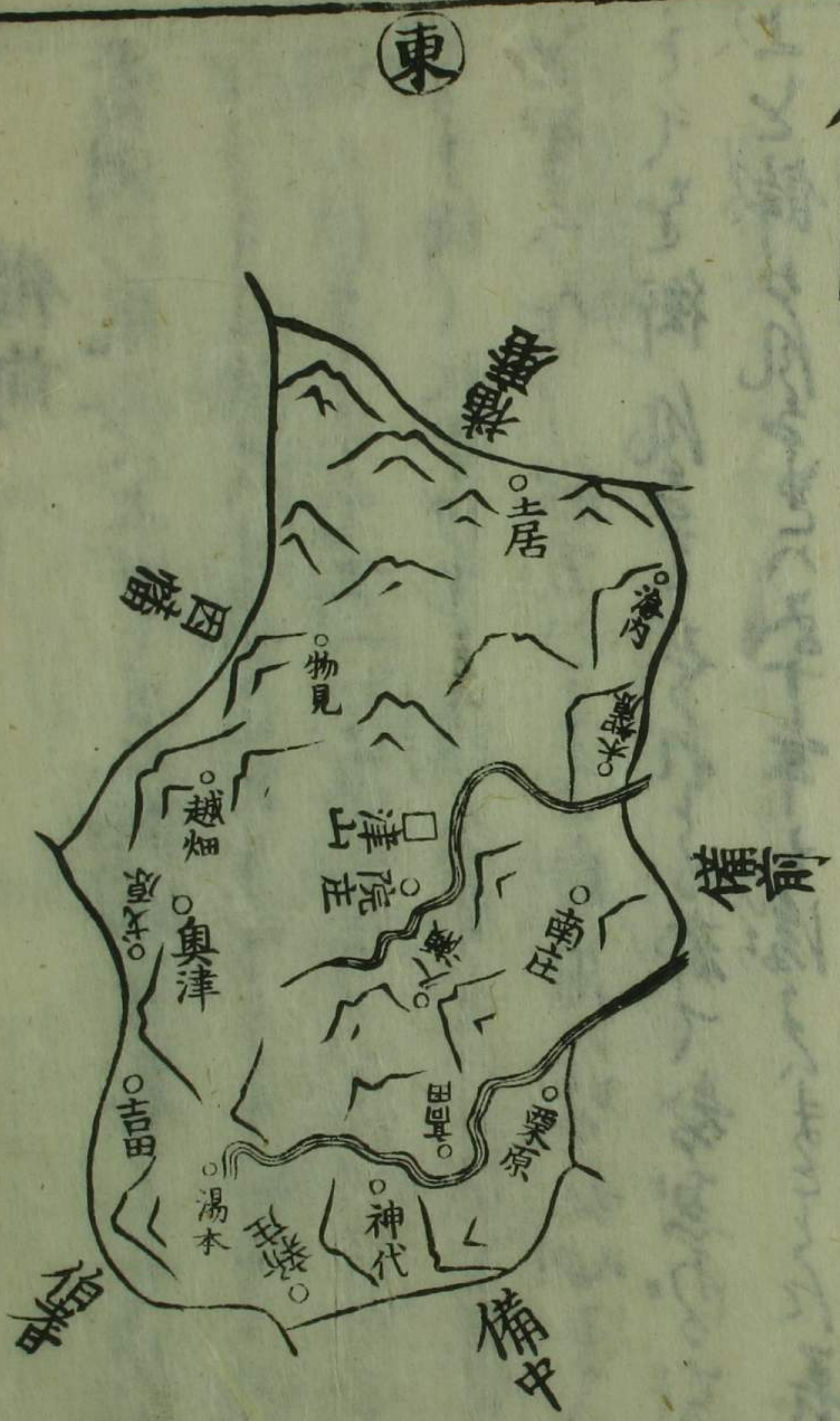


美作

當國の風俗ハ卑劣なり。欲心保一。譬ハ人の物を借て。夫と石返を却て。手柄不するやうの凡片意地なり。人の教訓を學入す。邪多に任て。過を文されども。中にも。化しやすきか。きも。ハたのり。石州より。まきわりのと。

尚且ハ山陰山陽の房をさへりて。山陰より。寒く。くまら。か。

美作國圖



人国言



備前

當國の風俗上下ともに利根を先として成り  
 とまじくは依て言ひのお遷する事かほ別て  
 偏心はよくして上へはよのぬきふ流ひて内心ハ  
 巴うさ肉くにさげすむ誘ある。主人ハ威を張て下  
 とおさへんとし。被官ハ主を欺肉ハ皆私心ありて  
 まてを御風まじ。まれとも都て智恵あるを  
 上と飾り凡そまじ。又十年も流るまことた善  
 さとせり。凡そまじある人さりとせ

按に當国ハ山入深くして海濱と抱たる由之  
 寒暑も中和と暖まる

備前國圖



備前國圖

備前國圖







備後

當國の凡俗ハ生得実養小シク。物を愛する事  
 多シ。されども愚痴ある事多シ。物言不実なる  
 事を并むと云々。

梅江。尚ほハ之等の内ありハ一の名を云々。む海  
 迎われども。出入深くして。物言の訛不わく。比  
 是は海濱ハ暖氣多シ。山中ハ寒多シ。

備後國圖



備前

備中



安藝

當國の風俗ハ生質実多風をまじとも。氣自然  
 と獲しく。衛人ひくして。人とせただく。人の善惡とも。に。  
 判らざるあり。己くく。一分をちる風あり。俗に。後群  
 なる人あり。世の嘲を恐るるを。恥し。けふ  
 さ。新なれども。虚言ハ。実多あり。恥れハ。善多あり。  
 殊。佐伯沼田。賀茂の人。健なり。二心表裏の風あり。  
 接よ。尚。西ハ。北海辺なれども。三方山かこ。南も。山  
 山多。秀。家。自。子。わ。る。國。ま。上。是。故。に。並。の

國ハ。風俗各別あり。と。え。た。中。に。北。暖。多。多。く  
 山陽。北。部。暖。温。多。多。く。何。者。南。ハ。四。国。の。大  
 山。あり。北。ハ。山。陰。の。山。に。覆。中。に。江。海。の。潮。漲。る  
 故。自然。と。凡。ま。和。多。く。民。俗。ハ。一。國。中。の。風。を  
 小。よ。わ。る。り。

安藝國圖













長門國圖



南海道六國

紀伊

當國の風俗ハ不律義者一不しく陽氣甚賤く  
 上ハ下を貪り下ハ上を侮り法令を不用就申  
 牟婁日高在田郡ハ我慢多し言比を強まるりと  
 思ハ又弱しく造り糸の奥意不極言ハ昨日敵と  
 あり今も今日ハ従ひ又先に星変あれハ己一分  
 の一揆を企の敷あり此故少や郷々に名臣庄司と  
 号して一分に五分とまう治業の私の時よりを



史傳しでんのふ強まこととげ風かぜの南みなみれり。伊那いな岩いわ草くさ那なが海うみ  
 部ま郡ぐんの八やち南みなみ郡ぐんより八やち氣き柔なやまり。持もちとも持もち掛かたる  
 志し比ひのそ中なかて。是これも法ほりりたる心こころ座ざ聊いさもあ。又また惡あくを  
 志しもていい夫それ不たふ陸りく行ぎやうの意いハままれとも。嶺たけの原はらありと。  
 日ひ中なかとぬ西にしあり多おほし。只ただ利り口こうを西にし前まへ不たふ取と。實じつ義ぎ  
 焉ゆもあ。西にし伴ばん兩りやう丹たん石せき別べつ又また玉たま不たふ比ひたれハ三さん比ひ強きやう。  
 按あに尚なほ玉たまハ大だい四しあり。そ一いつ迴まわ海うみ濱はらあり。む然しか  
 野の等とうの深ふか山さんもさそつとも。さ中なかハ海うみ辺へちり。南みなみ  
 方かたの國くによりゆへに風かぜ土つち暖ぬく氣き多おほく。柔なや和わの民たみ

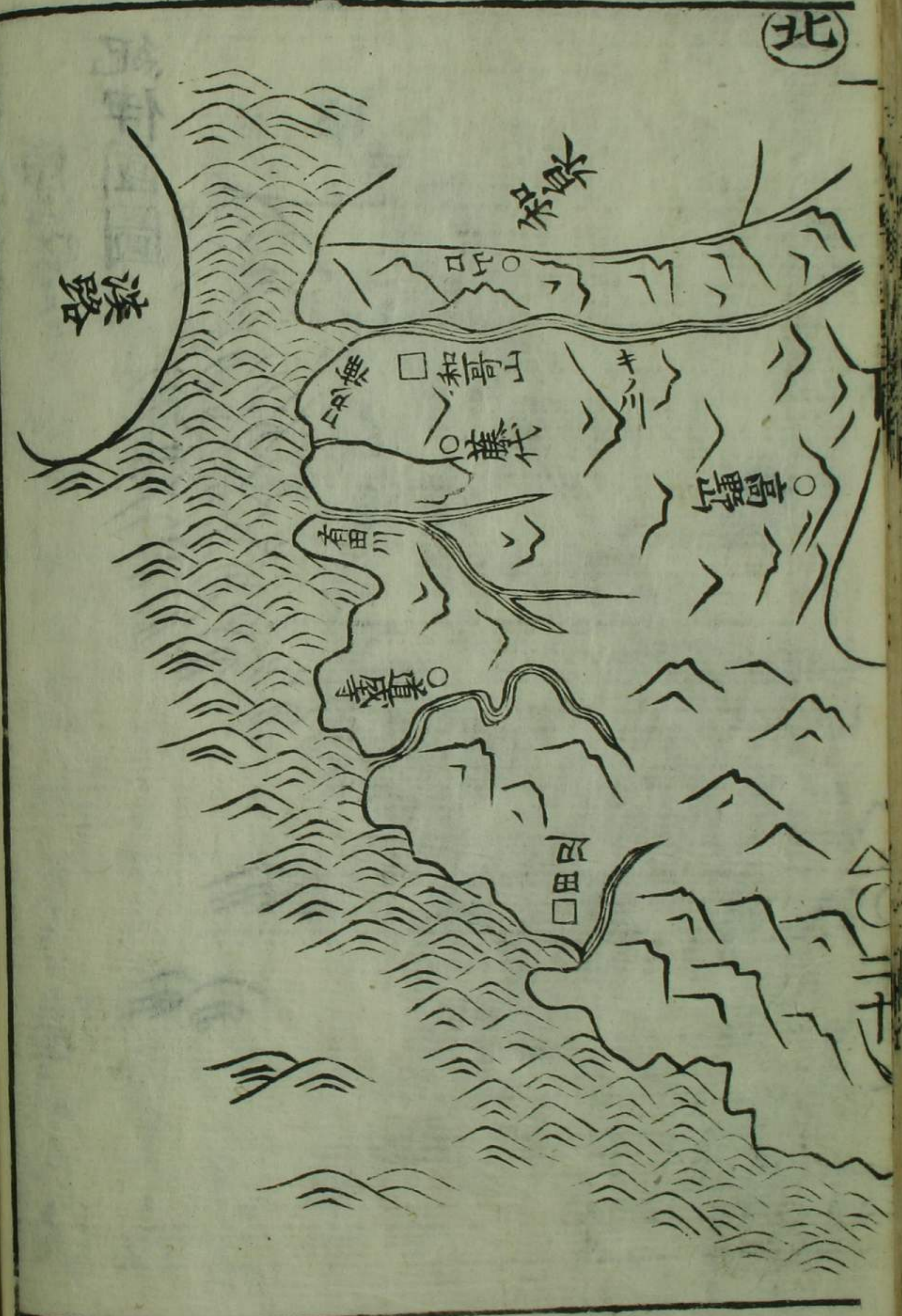
俗多り。

紀伊國圖





北



淡路

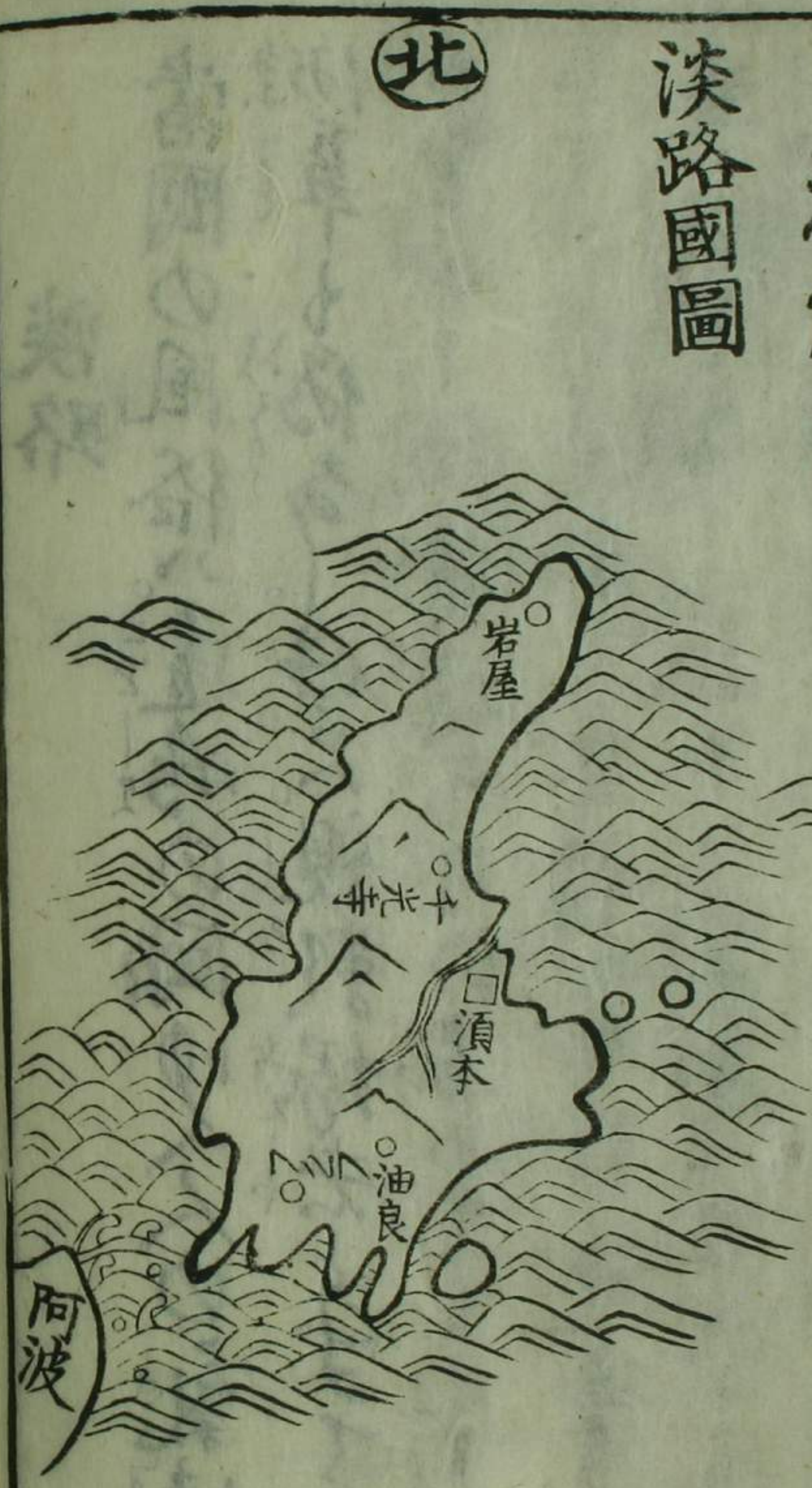
當國の風俗ハ遠海の國ゆへ人の氣健なり。  
 何事も偽あり。譬ハ親類縁者と云て其節  
 めを正し。縦貧賤乞丐の者あても尋常の凡  
 ちを正されども。初て怠惰からんて。去りなく。  
 退屈の多あり。武士も実義ハあれども。達人の  
 少あり。あつたて。

按に南西ハ紀伊阿波の島の海中の島あり。  
 四辺皆海ありてむ山あり。境畧々廣くあり。



南方ゆへに晴ふこと。民俗柔弱なり。  
て。まじりてまじりたるも。孤鴻なる如く。実義ありと云  
えられたり。

淡路國圖

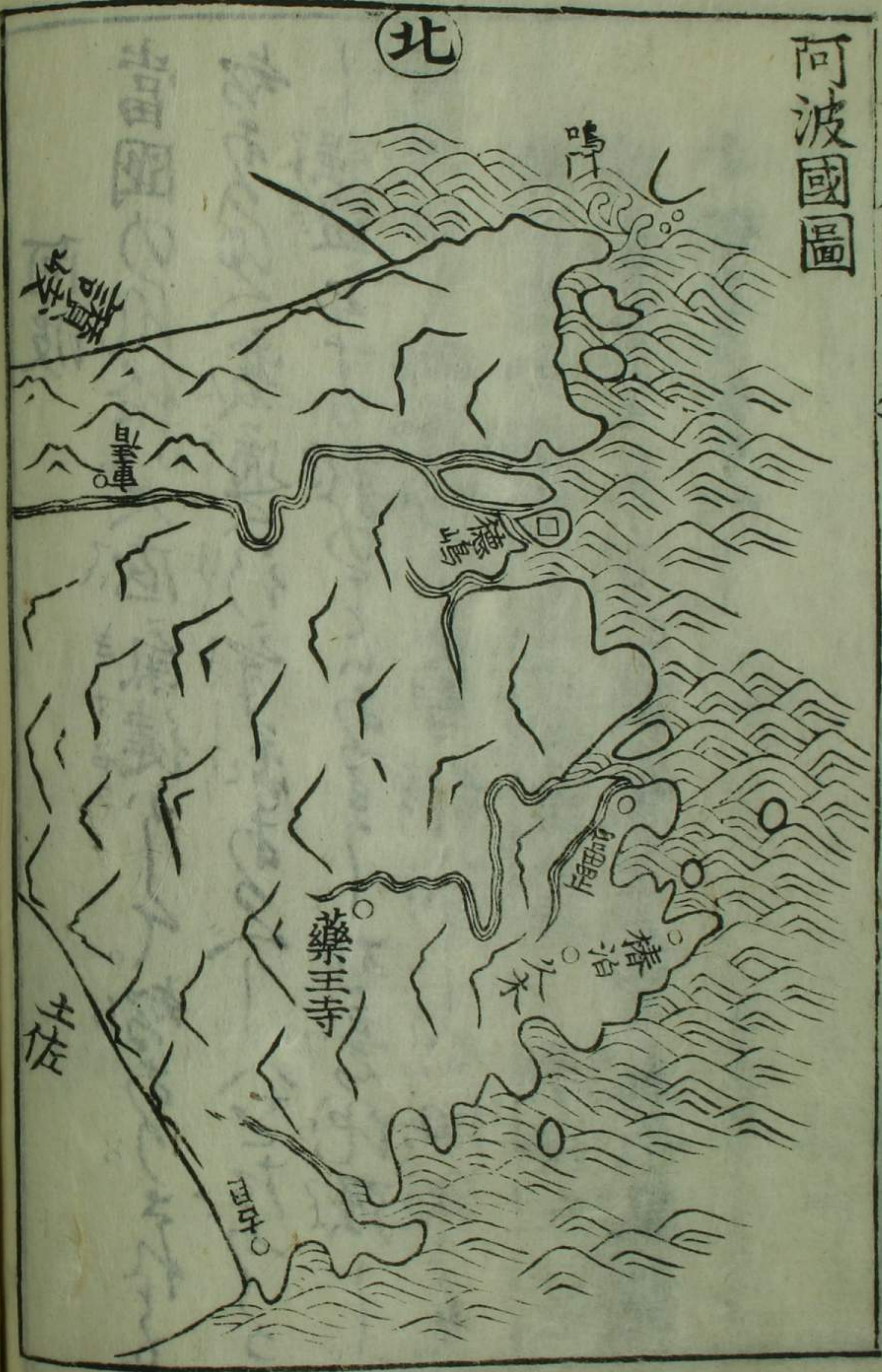


阿波

當國の風俗ハ大底氣健なり。智あり。されども。  
智ありゆへ。要道之に守る者あり。人をたたり  
し。強盗をすする者あり。むき地強し。  
勝浦那賀板野阿波兵馬郡ハ。心細強し。  
按に。尚且海濱。東小白負山。南海。北  
野。氣あり。東方の赤氣を要り。故に氣健  
小智あり。まじり。



阿波國圖



讃岐

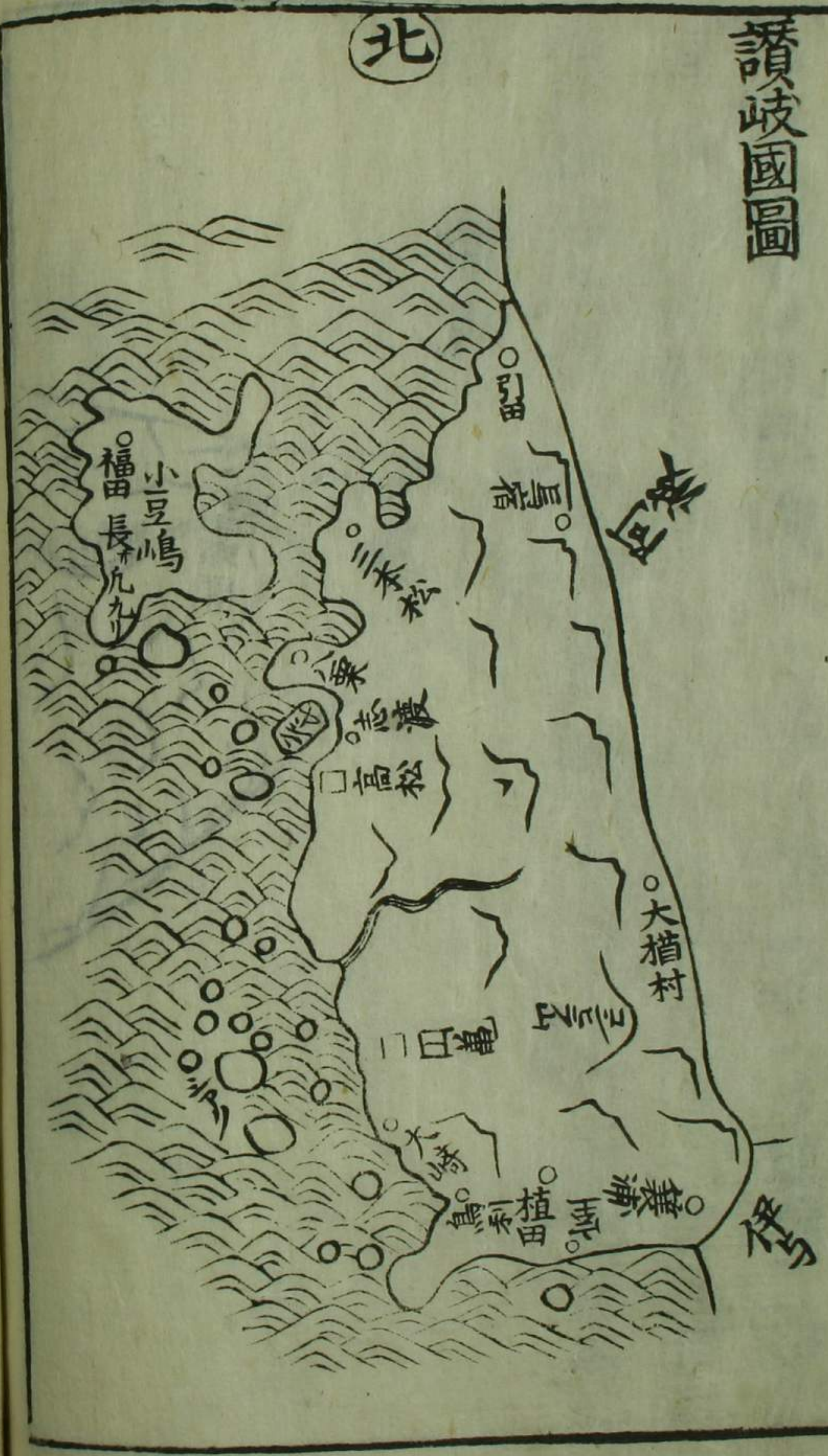


當國の風俗ハ氣候弱邪多の人多し。武士の  
 風別て強く。方便を以て立身をすべしと云ふ。  
 と思ふ事也。大内寒川三木三壱山田等救那別  
 び風さうしとも



按に尚ほ北には海と交たりぬなり

讃岐國圖



伊豫

當國の風俗ハ大形中分々に別れ。東七八郡ハ氣  
 質柔うして。實養強く。西郡ハ都て氣強く却  
 實ハ少く且ゆるあり。古より比叡ハ海賊満て。往  
 來の舟をちやまたぬのう。伊及少よ不慮。今をなを  
 徒常を立て。一列を立海族多し。磯ノ國東の強  
 盜。比叡の海賊同し。業うして。武士の風俗。一版てら  
 よりとりとも。其及以味なき。花子多き。風を  
 末の世とも。げ風雲すまう。まうそ

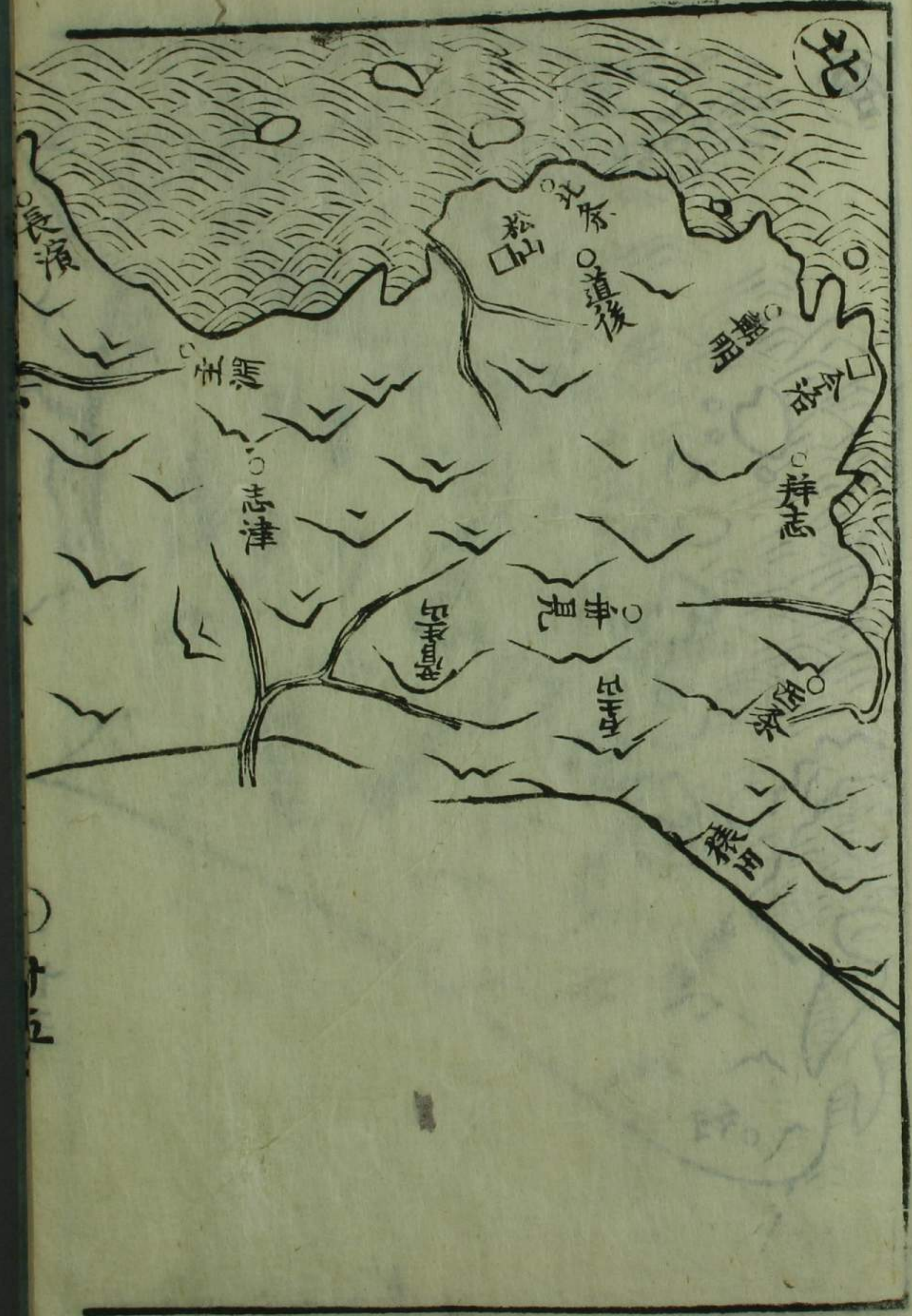


按に常山太國ありて。むつし  
 もろおろかろる何とむ。睦  
 睦の由也。

### 伊豫國圖



北





圖

小



十五



土佐

當國の風俗ハ極て真ありて。氣質すまなき事  
 王。土佐長門吾川の郡別ては風ありと。冬ふゆも  
 風の移りとのあや。け玉の様ようすまなき事。夏なつと  
 出つけよき也。但たゞをふゆ。其語言卑俚ありと云。  
 按に。南みなみは八やち大たい玉たまありて。百里の濱はぐきありと  
 山やまままあり。む南海なみけを受うけたり。田いりまま。故ゆゑ温ぬる  
 暖ぬるあり。

土佐國圖

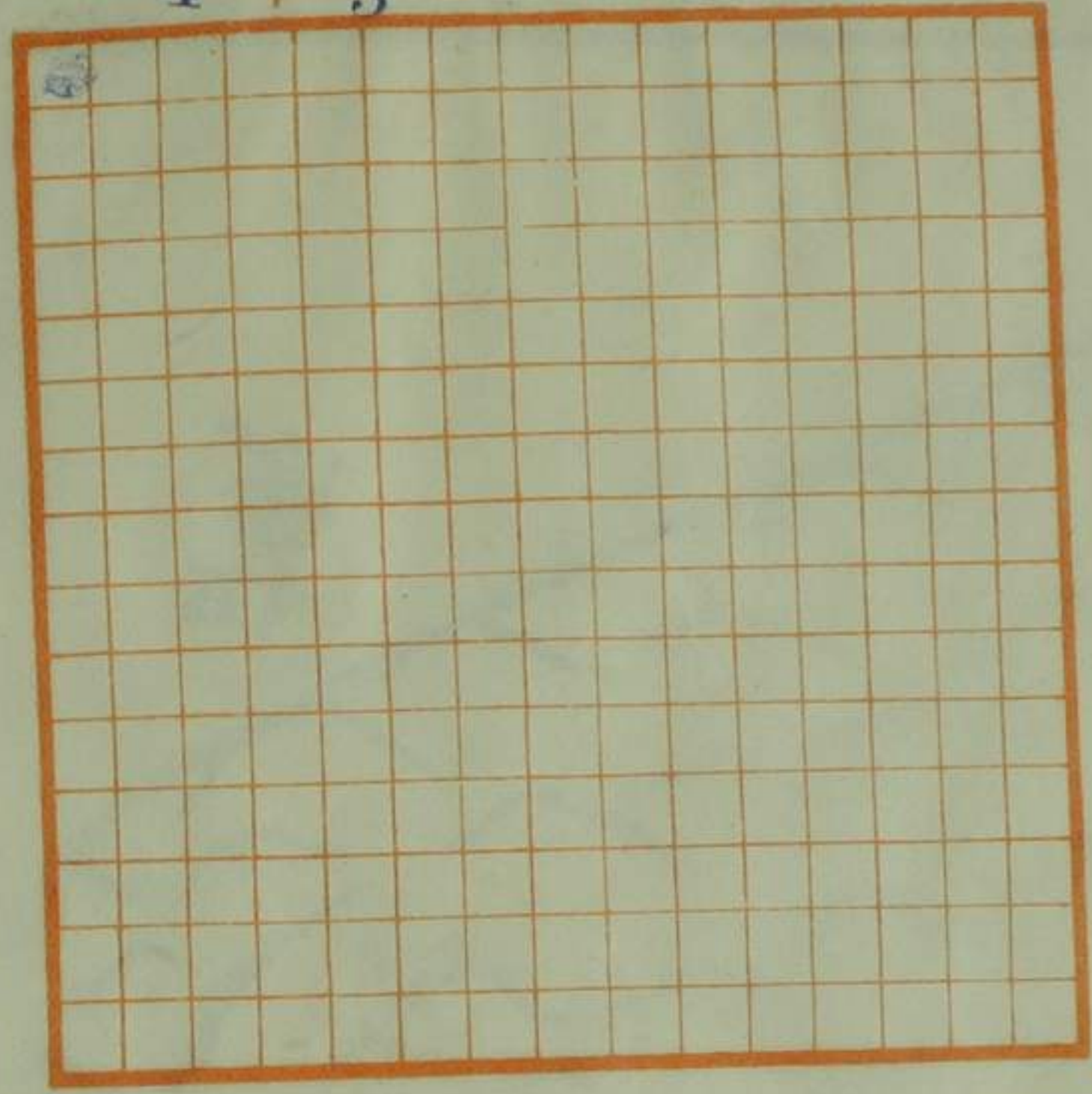




五



4年3月

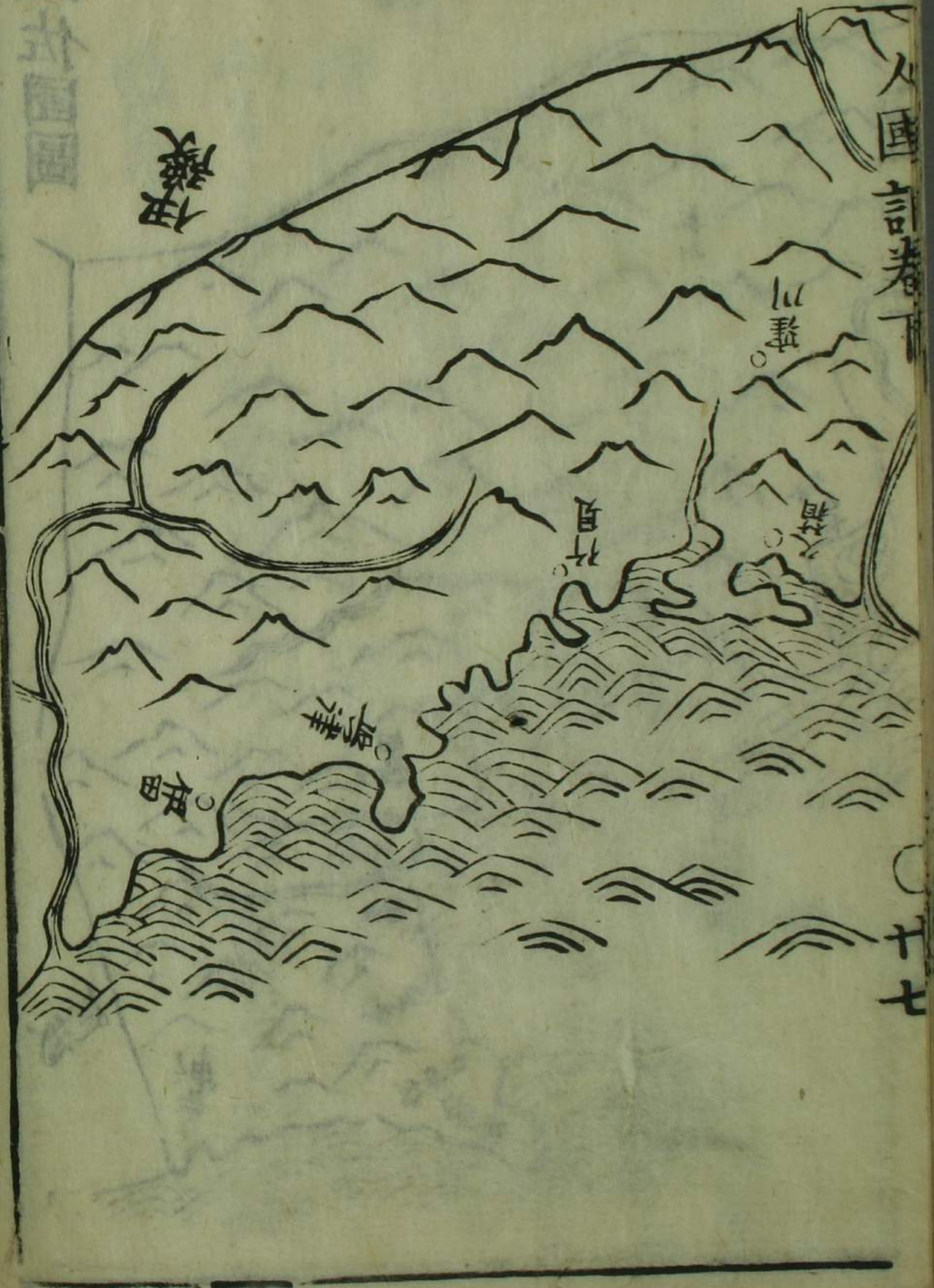


八國訂約

十七



大分國圖

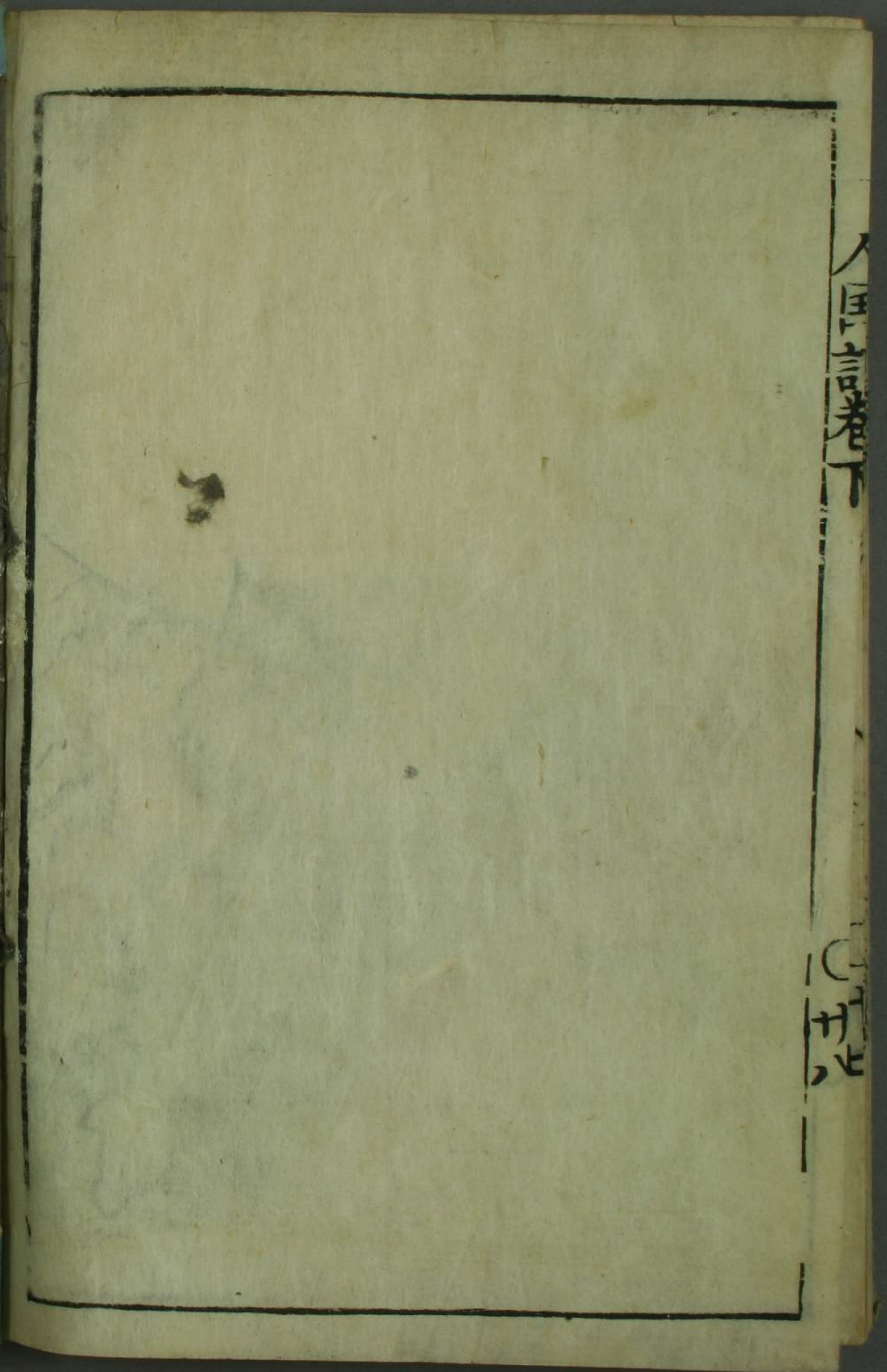


五



大分國圖





八  
國  
言  
卷  
下

七  
廿  
七



